



在京古高同窓会会報
第75号
http://在京古高同窓会.com
〒273-0117
鎌ヶ谷市西道野辺14-47-105
在京古高同窓会事務局
高橋 克嘉
TEL.090-8172-1938
kktakahashixx0987@gmail.com
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

山紫に水清き

会長 伊藤 健二



標題の次は「大崎耕土の暁に 知るや時代の鐘の音を」と続きます。剣道部の歌ですから、応援練習以外に歌った記憶はありませんが、春を迎えた季節には、清々しい雰囲気がありました。

旧制二高の明善寮の寮歌の出だしも、「同じく山紫に水清き」です。「山紫水明」の熟語がありますが、旧制二高の校章をぼんやりと見たときには、これも同じかとハッとしました。わが母校の蛍と同じではないかと。よく見ると、旧制二高は蜂章で勤勉を意味しています。校章に昆虫というのは珍しいもので、あまり見たことがありません。蜂章は記念碑として、既に歴史の中に入ってしまったが、「蛍雪の功」からとったわが蛍雪章は現役として、在校生、同窓生の拠り所になっています。旗印が名実ともに誇るべきものとなることを改めて思っています。

井上ひさし「兄おとうと」

井上ひさし氏は仙台一高のOBで、膨大な小説だけでなく、「こまつ座」を主宰して、戯曲にも足跡を残しています。戯曲「兄おとうと」は郷土の偉人、吉野作造とその弟吉野信次の折々の会話、衝突を通じ、周囲の家族も交えて時代の、そして時代に限らない考え方を伝えてくれます。

吉野信次は旧制古中の先輩、戦前は革新官僚として第一次近衛内閣の商工大臣、戦後にも鳩山内閣の運輸大臣も務めています。十歳も離れた兄弟ですが、二人とも東大の「恩賜の銀時計組」。

劇中では、「寒さきびしい小さな町」(現在の大崎市古川十日町)で生まれ、育ったおあんつあんとおとうとが意見を交わします。民本主義、反官僚主義の兄と「天皇の官僚」の弟ですから、意見が合うはずがありません。実際の立場がそうなのですから、そこに着目して場面を設定した井上氏の炯眼は並々ならぬものです。

なぜこの戯曲を挨拶で取り上げるの？というところでしようが、終盤のところから私自身膝を打ったからです。

中国からの留学生、大陸浪人、二人の妻なども入って、「国のもと、一つにまとめるもの」とはなにかが、喧々諤々されます。民族、ことば、宗教、文化、歴史と意見を述べ合いますが、吉野博士は事実を挙げて次々に論破していき、最後の答え

一在京同窓会メモ一
・会計年度は4月-翌3月、年会費は2,000円です。振込用紙が同封された方は会費納入をお願いします。
・会の健全運営のため、会費にあわせて賛助金のご協力をお願いします。
・次回会報第76号は2026年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

は、甘い言葉に過ぎませんが、「こころ」とともに生活しようとする意志、こころとこころによりよい生活を目指そうとする願い」なのだ。天皇の下の国家の官僚としての信次は当然決別します。

脇道にそれますが、勤勉の意味の蜂章といい、蛍雪の功の校章といい、吉野博士のまとめといい、「寒さきびしい小さな町」で育った人間には、温暖な地域とは違う刻苦勉励のメンタリティが似合うのですね。

地方創生2.0

地方こそ成長の主役として、再度地方創生が脚光をあびています。ありがたいことですが、「地方がなぜ必要なのか？」は国土の均衡ある発展のためや、東京圏への過度な集中回避という裏側からの説明ぐらしか見当たりません。私自身、地方の必要性の答えを考えあぐねていました。

劇中の吉野博士のまとめに膝を打ったのは、中央からの公式的な説明や経済合理性からの答えではなく、「こころ」ともによりよい生活をめざそうとする願い、意志」がその地域を形づくるのだと、得心がいったからです。

在京でできることは限られますが、在京同窓生で地域の産業育成に関わっている方も出てきています。交流人口を増やすのにも貢献できます。少しでも貢献できればと願っています。

令和7年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

- 【日 時】 令和7年6月21日(土) 11時~15時
- 【会 場】 総合宴会場「オーラム」地下2階「ローヤルの間」
TEL: 03-5812-1123
- 【会 費】 7,000円
- 【講 演】 三神 泉 氏 (昭和48年古高卒)

演題：すばる望遠鏡に活きた遊び心

世界最大級の望遠鏡「すばる」開発プロジェクトの牽引者として、欧米を技術で凌駕して完成させた経緯や天体観測のロマンについて語る

【講師プロフィール】

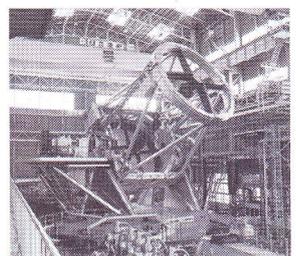
- 三神 泉 (70歳) 京大博士(工学)、技術経営士
- ・昭和30年 美里町生まれ
- ・昭和53年 東北工科大学卒業後三菱電機入社
- ・令和6年から三神泉技術経営コンサル代表 (現職)
- ・NHK プロジェクトX『宇宙ロマンすばる~世界一の望遠鏡』に出演
- ・恩賜発明賞、紫綬褒章等を受賞



紫綬褒章受章時



古高時代の三神氏



すばる望遠鏡

本部同窓会だより

雪第75号に寄せて

古川高校同窓会
会長 伊藤 貞嘉



在京古高同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

現代はVUCAの時代と呼ばれています。VUCAはV (Volatility: 変動性)、U (Uncertainty: 不確実性)、C (Complexity: 複雑性)、A (Ambiguity: 曖昧性) の頭文字をとったものです。アメリカとロシアの冷戦が終結した1990年代後半にアメリカで生まれた軍事用語で、「国と国との争い」と一括りにはできない複雑化した国際情勢を指していました。それが2016年、世界経済フォーラム(ダボス会議)で「VUCAワールド」と使用されたことをきっかけに、広く使われるようになりまし。一言でいうと「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味します。この状態はトランプが米国の大統領になり、ますます加速されています。

昨年末、東北大学がわが国初の、そして唯一の国際卓越研究大学に認定されました。いづれ、東大・京大等も認定されると思われま。日本の大学も国際標準で運営されることを期待しています。非常に競争が激しい米国で長年戦ってきた私は、日本に帰ってきて、日本の組織の閉鎖性や硬直性に愕然としました。2012年に研究担当理事になつてから様々なことに取り組みました。その一つが東北放射光ナノテラ

スを中心としたサイエンスパークでした。世界最高性能の放射光施設の建設は、東日本大震災の折に理化学研究所の有志で計画されたものでしたが、なぜか、それが私のもとに届きました。建設費用だけで300億円もかかるものでしたが、私はそれを「わが国に是非必要な施設」と認識し、東北大学の正式のプロジェクトと決め、その実現を先導することに決めました。全くゼロの状態から産・学・官との果てしない交渉の結果、私の理事の任期(2018年3月)終了間際に、国が青葉山キャンパスに建設することを決定しました。現在、ナノテラスの本格運用も開始され、世界からも注目されています。新しい産業や科学技術の創造に大きな貢献をすると期待しています。

今年の干支(えと)は乙巳(きのと・み)です。干支の「支」の字は十二支の「支」であり、12種類の動物からなります。今年(2025年)は「巳」年です。一方、干支の「干」の字は「干(じつかん)」と言って、甲(こう)・乙(おつ)・丙(へい)・丁(てい)・戊(ご)・己(こ)・庚(こう)・辛(しん)・壬(にん)・癸(みづ)の10の順番を表す数値だそう。これらを組み合わせたのが干支で、今年(2025年)は「乙巳(きのと・み)」となるようです。「乙」は草木がぐねりながらも

しなやかに成長して広がっていくこと象形文字だそう。一方、へびは医療のシンボルにもよく使われ脱皮しながら成長し、再生と治癒のシンボルとされています。この二つを合わせた干支である乙巳は、「変化を恐れずに新しいことを始め、困難な状況でも成長を続ける」といった意味合いがあるそうです。私も一皮むけ、少なくとも10年間はアクティブ・チャレンジングな現役生活をしようとして、3月末に脊柱管狭窄症の手術を受けました。経過良好で、先が楽しみです。

古高同窓会は、在校生がたくましく育つて、世界に目を向け、情熱と

勇気をもって様々な課題に挑戦していくことを支援していきます。ご支援をよろしくお願いいたします。皆様の益々のご健勝を祈念しております。

三度目の古高

古川高等学校校長
野中 淳



在京古高同窓会の皆様には、日頃より母校の教育活動に対し、さまざまな形でご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度も何卒母校で学ぶ伸びゆく子供たちのためにご支援をよろしくお願いいたします。申し遅れましたが、この4月に古川高校に赴任しましたが、この4月に古川高校に赴任した野中淳と申します。再び伝統ある古川高校に勤務することができ大変光栄に思っていますと同時にその重責に身の引き締まる思いであります。3月まで兄弟校である築館高校に2年間勤務しておりました。昨年、一昨年と築館同窓会東京支部総会に参加した折、伊藤在京会長と親しくお話しさせていただきました。在京古高同窓会の様子や会員の皆様の活躍など丁寧に教えていただきました。会報第73号もいただき、横倉(旧姓・樋野)さんの寄稿文にふれて当時を懐かしく振り返り感慨にふけつたのを思い出します。これから在京同窓会の皆様方と親交を深められますこと大変うれしく思っております。

さて、私は、生まれも育ちも大崎市古川です。高第39回(62年3月卒)の同窓生です。ソフトボール部に在籍しておりました。中学まで野球をやっておりましたが、技術的に自信がなかつたり、せつかく髪が伸ばせるの

にまた坊主にするのがいやだったり不純な理由で入部したのを思い出します。当時は愛好会、指導者もおらず、各中学校野球部で実績のある先輩方が自分たちが工夫して練習し、宮城県内で4校ながら毎年のようにインターハイに出場していました。野球よりもスピードが要求され、とてもハードな練習できつかったのを思い出します。おかげさまで私も2年連続インターハイに出場し、2年の秋には先輩方の活躍で鳥取国体で3位という素晴らしい結果を収めました。あの感動は忘れられません。そんなことで部活中心の高校生活、勉強の記憶は英語の松井先生にこつびどく叱られた思い出しかありません。

大学を卒業し、仙台商業高校に赴任、縁があつて男子ソフトボール部の顧問となり、運良くインターハイに出場する機会ももらいました。平成9年4月に古高に赴任、19年度まで11年間努めました。もちろんソフトボール部顧問、ちよと宮城国体があり生徒と何日も寝泊りしていた記憶は昨日のことのように覚えています。また、担任として4回卒業生を送り出し、平成20年3月には初めて女子の卒業生を送り出しました。国語の授業や生徒会活動とおし、語り尽くせないほどのたくさん思い出があります。充実した11年間でした。

そしてこの度18年ぶりの赴任、これも定期戦の相手校である築館高校からというところで、私にとっては「青天の霹靂」でした。校舍建築の大きな仕事があり、また令和9年度に130周年を迎える重要な期間に母校のために汗を流せることはこの上ない幸せと思っております。同窓生皆様方の期待に応えられるよう努力していき所存ですので、引き続きご支援、ご助言いただきますようお願い申し上げます。

在京同窓会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

複雑な税務問題の相談に応じます

税理士鈴木博事務所

税理士 鈴木 博 (昭和46年卒)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 第37森ビル1階

(虎ノ門合同事務所)

TEL 03 (3433) 0481 FAX 03 (3433) 0493

E-mail : hiro0917@toranomom-ssta.com

MOTOR SPORTS OIL
FORTEC

エコオイルからレーシングオイル開発に携わり、国内、海外展開をしている。
FORTEC モータースポーツオイル発売元
耐久レース、ラリー、ダートトライアル、ジムカーナ等のサポートドライバーが大活躍しております。

代表取締役 渋谷 誠一 (昭和42年卒)
フォルテック株式会社
〒270-1108 千葉県我孫子市布佐平和台 4-5-23
TEL 04-7189-4117 FAX 04-7189-2687
<http://www.fortec-oil.com/>

東京蛍雪賞

ハートフルな卒業式

『東京蛍雪賞』を二人に授与

三月一日に高校の卒業式が行われ、在京同窓会からは会長が出席し、東京蛍雪賞を授与しました。今年の受賞者は、生徒会長の菅原太智君(たいち)君、応援団長の米林大雅(ひろまさ)君の男子二人です。

昨年の受賞者は女子二人でしたが、今年は男子二人。次期の応援団長は女子です。その学年の特徴が出るというだけで、もはや男子が女子というコメントは不要の時期になっているのだと感じました。卒業式での生徒会長の菅原君の答辞はこれまで成長を支えてくれた周囲への感謝が伝わり、応援団長の米林君のエールは会場を圧するほどの迫力で、最後は「社会で自分なりの解を求めて、強く生きよう！」と締めました。生徒の声も出ており、やはり応援練習、築高戦を経た賜物と感じさせられます。

お二人に立候補した理由、在任中の印象に残ったことを聞いてみました。

菅原君(古川西中学出身、山岳部)
「授業では得られない多様な価値観や社会への視点を学んでいきたいと考えました。それをキャリア教育プログラムにつなげました。生徒総会では議題ごとに賛成・反対



生徒会長 菅原太智君

で体育館の左右に分かれる方式も採用し、生徒からの意見発表が増加し、有意義なものとなりました。」

米林君(小野田中学出身、バスケットボール部)

「応援とは魂の叫びであり、他者を思いやり、力づけ、集団の団結を意識させるものです。在任中により進んだことは二つあります。一つはコロナで応援団活動が休止再開後に指揮、振り付けが変形してしまつたことに気づき、OBの先生の指導の下、元の正しい形に戻すことができました。さらに、練習が始まる前に応援団の活動の意義と練習の必要性を新入生と保護者にお伝えするように力を尽くし、理解されたと思います。かけがえのない伝統を紡いでいくために、この姿勢は今後の応援団に受け継いでほしいと思います。」



応援団長 米林大雅君

卒業生の退席時の行動

卒業式終了後、卒業生はご臨席の皆さんの拍手をもらいながら、吹奏楽部の見事な演奏を背に、各クラスごとに一緒に退席していきます。クラスごとに形式は違いますが、あるクラスは保護者席を囲み、立ち止まった上で、「3年間、ありがとうございました！」と唱和していました。こんな感謝の言葉で包まれたなら、保護者の皆さんの涙腺は緩むだろうと遠くから感激しました。私たちの時代に感謝の気持ちになかったわけでは無いのですが、こうして形にすることになりました。

2025年3月卒業生 合格先一覧 (2025.4.2現在)

国立大 71名 (現役68名+過卒3名)

大学	学部	推薦	一般	過卒	計
帯広畜産大	畜産	1			1
弘前大	人文社会	1	1		2
秋田大	教育文化	1			1
岩手大	人文社会	3	3		6
	教育	1	2	3	6
	理工	10	1	11	22
東北大	農	1	1		2
	文	1	1		2
	経済	1	1		2
	工	3	3		6
医		2	2		4

公立大 30名 (現役29名+過卒1名)

大学	学部	推薦	一般	過卒	計
鉦路公立大	経済	2	2		4
青森公立大	経営経済	1	1		2
秋田県立大	生物資源	3	3		6
秋田公立美	美術	1	1		2
岩手県立大	総合政策	2	2		4
	ソフトウェア	1	1		2
山形保健医	看護	1	1		2
	保健医療	1	1		2

私立大 362名 (現役355名+過卒7名)

大学	学部	推薦	一般	過卒	計
北海道科学	薬	1			1
酪農学園大	農食環境	1	1		2
日本赤十字	獣医	1	1		2
	看護	1	2		3
盛岡大	看護	1	2		3
東北芸術工	芸術	2			2
東北学院大	デザイン	1	1		2
	文	1	29		30
	法	3	25		28
	経済		30		30
	経営	1	7		8
	国際		9		9
	地域総合		13		13
	情報		7		7
	人間科学	1	3		4
	工		31		31
東北工業大	工	10	1		11
	ライフデ	6	6		12
東北福祉大	共生マネ	2	2		4
	総合福祉	1	13		14
	教育	2	10		12
東北医科薬科	健康科学	2	8		10
	薬	5	2		7

専修各種学校 5名

看護専門学校	推薦	一般	計
石巻赤十字看護専門学校	1	1	2
仙台医療センター附属看護助産	1	1	2
東北防災看護専門学校	1	1	2

就職 1名

就職先	現役
宮城県警察官	1
合計	1

海外留学 2名

就職先	過卒
中原大学(台湾)	1
実践大学(台湾)	1
合計	2

通信制大学 1名

大学	学部	推薦	一般	計
ZEN大学	知能情報社会学部	1	1	2
合計		0	1	1

大学校等 2名

大学校	学部	推薦	一般	計
静岡医療科学専		1	1	2
国立看護大学校	看護	1	1	2
合計		0	2	2

短期大 1名

短期大学	学部	推薦	一般	計
山野美容芸術短	美容総合	1	1	2
合計		1	0	1

※「推薦」には総合型選抜(旧AO入試)含む

専修・各種学校	推薦	一般	計
宮城文化服装専門学校	1	1	2
仙台大原簿記情報公務員専	1	1	2
合計	1	4	5

就職先	現役
宮城県警察官	1
合計	1

就職先	過卒
中原大学(台湾)	1
実践大学(台湾)	1
合計	2

四校新年の集い 報告

第29回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」が、1月25日(土) 大手町KKR「ホテル東京」にて137名の参加を得て開催されました。

今回幹事の古川工業高校同窓会さんの進行で、まずは各校の校長先生から生徒たちの活躍振りにつき近況報告があり、出席の皆さんは感心頻りで聞いていました。やはり後輩たちの活躍は嬉しいものです。そして伊藤市長からは『宝の都(くに) おおさき』に絡めて、大崎市を日本一の市にするため数々の施策に取り組んでいる旨の紹介がありました。因みに伊藤市長は涌谷町生まれの75歳、小牛田農林相撲部出身で県議会議長及び大崎市市長を5期務めて居られるそうで、相撲で鍛えたそのパワーには圧倒されるものがあります。そこでその力を頂きたいで「大崎市の日本一」を調べてみました。

● 鳴子の米「ゆきむすび」 ↓ 第3回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト(2009年)で最優秀賞

● 大崎市水道部製造のペットボトル「鳴子の水」 ↓ 日テレ企画番組日本一うまい水道水を大調査(2009年9月放送)で「日本一おいしい水」に選出

● 真山のニコニコフルーツトマト ↓ 第3回全国トマト選手権(2024年)で最高金賞

● 岩出山「あ・ら・伊達な道の駅」 ↓ 「じゃらん」全国道の駅グランプリ2024で第1位
● 大崎耕土 ↓ 2017年ユネスコ

世界農業遺産に登録 などなど改めて大崎市の日本一がこんなにあるとは驚きましたが、これも自然が育んだ大地や水と先人達の努力の積み重ねのおかげであり、それを今しっかりと受け継いでいる方々のお陰でもあると思えました。そんな数々の日本一がある一方で市内9校の高校生たちが参加して「おおさき高校生タウンミーティング」が催され、20年後の大崎の未来を話し合ったりと夢のあるイベントも逐次開催されているようです。こちらにも感心させられます。些か脇道に逸れましたので話を戻します。ご来賓の方々の挨拶を頂いたのち、黎明高校OBの吉田祥子さんと東京芸大卒の平田もも子さんのピアノによる新春コンサートが開演となり、3オクターブの音域をもつ歌声を生で聴き只々圧倒されました。昨年在京古高同窓会の総会で公演頂いたオペラ歌手の青木麻菜美さんもそうですが、大崎市の高校から数々の音楽家・声楽家が輩出されていることに改めて驚かされます。それは、こと古高に関しても見れば、蛭雪第73号にも寄稿頂きました友川先生(昭和39年〜平成元年古高勤務)を始め音楽教育に尽力された諸先生方の熱い薫陶の賜物に違いないと思えます。

そして各校の同窓会代表の挨拶が終わり乾杯から懇親会へと移り、各々旧交を深め合って大盛会のうちに無事お開きとなりました。4校合同は単独の同窓会では会えない他校の方々と会える貴重な機会でもありますが、今後はもっと若い世代にもこうした活動への参加を呼びかけ、そのための魅力ある企画や運営に知恵を絞る必要があることを改めて感じさせられました。(昭53年卒 高橋誠一郎)



伊藤大崎市長挨拶



吉田祥子さん、平田もも子さん公演



窓の外は皇居が眼下に



ボクシング藤岡チャンプを囲んで



いい笑顔です



そしてカラオケも



閉会締め

BIPは、企業様と共に事業開発・経営改善に取り組み、第2・第3の成長を創るパートナー



Business Integration Partners
BIP株式会社

昭和 42 年卒
取締役会長 佐々木 昭美

東京本社 東京都中央区日本橋1丁目2-10 東洋ビル6F
TEL: 03-5542-1417 FAX: 03-5542-1418
東北事業所 宮城県仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F
TEL: 022-208-9322

E-mail: info@bi-p.co.jp URL: http://www.bi-p.co.jp

在京古高同窓会のホームページ (<http://www.kougakou.com>) にこれまで発行した会報「蛭雪」欄を設けていますが、いくつか欠番があります。つきましては次の「蛭雪」各号をお持ちの会員様はご提供をお願いいたします。ご提供頂ける方は、事務局までお電話頂くか、ご送付頂きますようお願いいたします。ご提供頂きました会報は後日ご返却いたします。

〈欠番〉 第4号、第9号、第11号、第12号、第19号、第21号、第38号、第41号 (在京古高同窓会事務局)

会報「蛭雪」の
ご提供依頼

自由投稿

ソプラノ歌手
青木麻菜美後援会

昭34卒 佐々木 元弘
青木麻菜美後援会会長

ソプラノオペラ歌手青木麻菜美さん(古高平成24年卒)は、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科を首席で卒業し、現在は米国・ニューヨークを拠点に活躍する一方で、宮城の子供たちの音楽活動を応援する「みやぎチルドレン」の事務局長も務め、子供たちに声楽の指導を行うなど、多方面で精力的な活動を続けており、特に最近の活動についてはご存知の方も多くおられるかと思えます。

私が初めて青木さんを知ったのは、令和5年8月5日に開催された古川高校同窓会の総会でした。初めて聴く歌声に衝撃を受け、その舞台上に大いに魅了されました。その時、ここからのスケジュールを聞きましてと、9月1日にエル・パーク仙台スタジアムホールでオリジナルのシヨール「Opera is Boring」(オペラはつまらぬ)を初演するとのこと。そのチケット販売は当初WEB(インターネット)中心で行なっていたのですが、それでは公演の前評判が今ひとつ盛り上がりがないとのこと、急遽、藤崎のプレイガイドでも販売したり、歌手さとう宗幸さん(古川高校の同窓生)の番組「おおばんですー」(8月17日)にも出演させていただったり、また、河北新聞をはじめ読売新聞、毎日新聞にも大きく掲載して貰いました。その甲斐あってか公演は満員の盛況を博し、私

もたいへん楽しい時間を過ごすことができました。現在、再演のお話も出ているようです。

そして令和6年1月に青木麻菜美後援会が発足するわけですが、その経緯は次のようなことでした。渡辺義之前古高同窓会会長(古高同期「士志の会」初代会長)が青木麻菜美さんと以前から学校を通じて知り合いで応援していることを知り、私から青木麻菜美さんの後援会を立ち上げてはどうかと相談し、併せて後援会会長の就任をお願いしましたところ、渡辺さんからは、「佐々木さんが中心になって進めてはどうですか」とのこと。士志の会に相談し、その上で青木麻菜美さんご本人のご意向も伺いましたところ快諾を得まして、晴れて後援会発足となった次第です。

青木さんのその年の主なコンサートや行事を紹介しますと以下の通りです。

- 6月8日 みやぎチルドレンコンコクトの審査委員
- 6月22日 在京古高同窓会でのコンサート
- 6月30日 クロスオーバーコンサート(オペラ、民謡、ジャズ等)
- 7月13日 Timeless Love Duets (ティナーシヨール)
- 7月21日 ハーモニーフォレスト開講30周年記念コンサート

明けて今年1月6日、青木麻菜美さんは初めて大崎市主催の「新年会」にお招き頂き、400名ほどの観客と関係者で溢れた会場でご指名を頂いて3曲を披露、アンコールもあって満場の喝采を頂きました。その翌々週の1月19日には、加美町のパツハホールで開催の「パツハホー

ル管弦楽団ニューイヤール・コンサート」に青木麻菜美さんがソリストで抜擢され、コンサートの第2部で管弦楽団をバックに、プッチーニの歌劇「ジャンニスキッキ」より私の優しいお父さま、映画「千と千尋の神隠し」より熱き口づけ/木村弓、などを熱唱しました。たいへん素晴らしい舞台で、こちらもお客様から大喝采でした。こうした皆さんからのたくさんの声援を手土産に、青木麻菜美さんは2月1日ニューヨークに戻りました。

私たち「士志の会」のメンバーは皆いい年齢ですが、無理をしない程度に、令和の逸材 青木麻菜美さんを応援し、長生きをしたいと思います。今後とも、青木麻菜美さんへの熱い熱いエールを是非とも宜しくお願い申し上げます。

おめでとう

10000のビジネス

昭57卒 赤間英一

最初にこの表題の言葉に接したのは、2024年5月でした。ちょうど宮城県が東北大学等と共に起業(スタートアップ)支援育成を目的として「テクスタ宮城」という組織を立ち上げ、私の勤務先であるストームハーバー証券株式会社とその構成員として参画していたところ、当時のテクスタ宮城の方からある日、大崎市でも同様の取組みをしようとしているので紹介をしたいとの申し出を受けたのがきっかけでした。

1982年に大学進学の為上京して以来、父親が2018年に亡くなる頃まで、故郷大崎の事情に殆ど触れることのなかった自分が大崎市の企業数など知るはずはなく、これか

ら10000の企業を起業させるといふべらぼうな企画か??等々、どうにも頭の整理が出来ないどころ、この取組みの中心人物の1人である大崎市議会議員の小玉仁志氏より「10000という意味は、この20年の間に大崎市から姿を消した企業や事業所の総数です」という、これ以上後がないとの悲壮感が滲みつつも、決然とした思いが込められた答えが返って来たのでした。

地方の人口減少や経済の経常的とも言える縮小問題などが叫ばれてから久しいですが、大崎もその例外ではないだろうと思っていたものの、具体的な10000という数字を示され大きな衝撃を受けました。同時に、中心となって強い覚悟と使命感を持って何とかしようと思つたと取組んでいる「おおさき10000のビジネス実行委員会(以下、「10000ビズ」と言います)の方々に接し(その多くは古高の後輩でもあります)、同じ故郷の出身者として、また古高卒業生としても、出来る限りの支援をしようとの覚悟をほぼ瞬時に決めたと言っても過言ではありませんでした。それ以降、会社の理解も得ながら(ちなみに、当社は地方銀行等との連携強化を通じて地域経済に貢献していくことも大きな役割の一つとして位置付けています)、また地元出身者も含めた貴重な人的資源も活用しつつ、10000ビズに対して人脈構築の支援や勉強会というような機会を通じた各種助言等の提供に取組んでいます。

10000ビズとしての最初の大きな取組みは、昨年11月に開催された「オーブンイノベーションピッチ2024」というイベントでした。10000ビズでは、この先10年以内に大崎より上場企業を輩出するという大きな目標を掲げており、ピ

ッチイベントはその候補となる企業を探すという意味でも極めて重要な取組みでした。結果的には、全国から53社(内、海外企業4社)が応募し、その中から10社がファイナリストとして選出され、大崎市役所の新しい本庁舎大会議室におけるピッチイベントにて各々の事業構想を熱く語っていただきました。ピッチイベントには大会議室がほほいっぴいになるぐらい、100名に迫る観客が集結し、たいへん盛り上がりの中で最終的に5社が受賞者として選ばれました。当日の様子は河北新報をはじめ日刊各新聞にも取り上げられ、オーデイエンス参加をされた日本政策金融公庫の役員の方からは、非常に事業性の感じられるレベルの高いピッチイベントだったとの感想を聞くことが出来ました。なお、当日のイベントは、殆どが有志による運営で行われたのも大きな特徴で、例えば、司会の方は古高出身の元北海道文化放送アナウンサーの川上椋輔氏で、わざわざ自費で北海道から駆けつけ、本イベントの盛り上げ役を買って出て頂きました。

このように、第一回ピッチイベントは大成功の裡に終えることが出来たのですが、その後の受賞企業への継続的な支援の実施や、また今年の秋に開催予定の第二回ピッチイベントに向けた準備など、現在取組むべき課題は多くあるといった状況です。10年以内に上場企業を輩出するというべらぼうな目標達成のためには、VCファンドなどが通常行っているような投資家を集めての資金支援のみならず、経営上の諸課題解決に向けた各種伴奏支援なども必要になってくると思われまます。長い時間軸の視点から、どのようにスタートアップ企業等に継続的かつ実効性のあるこのような支援を行っていくか、

その基盤となる組織的枠組み・体制を構築することが1000ピズの最大の課題(言わば、将来の飛躍に向けた次のステップアップに向けての踊り場)となっているところ。一般社団法人おおさき産業推進機構を組織的な中核に1000ピズが立上げられ、その行政的な支援も得ながら活動が展開されているのですが、その担うべき大きな役割を勘案すれば、産・学・官・金を結集して次の段階に移行すべき必要性について議論が行われています。

1000ピズという歴史の、まだ、始まりの終わりにも至っていない現段階ではありますが、地元の方々や在京古高同窓会の方々など、大崎に縁のある方々に1000ピズの話をする、とても心強いことに皆さんからは非頑張れ！との声を多く頂きます。それだけ故郷大崎の今後の発展を願う気持ちが強く、何らかの形で応援したいとの思いを等しく持つていらっしゃるのだと改めて実感しているところです。

「山紫水明の地 偉人傑士を生む」これは、昭和41年発行の三本木町史において当時の今野元治郎町長が記された言葉です。また同町長は、次の世代に伝えて行くことの大切さについても述べておられました。当時も今も変わらない山紫水明の大崎の地から次の時代を担う偉人傑士が出て来ることを希求しつつ、大崎に縁のある方々と共に1000ピズを今後共支援して行ければと思っております。貴重な知見を有している在京古高同窓会の皆さまの暖かくかつ力強い応援・ご支援をお願い申し上げます。1000ピズのご紹介とさせていただきます。

【1000ピズのホームページアドレス → <https://osaki1000.com>】



オープンイノベーションピッチ 2024 の表彰式を終えて

古高美術部 ハイレベルな体育会系文化部

昭52卒 湯本 秀昭

今から51年前、私は古川高校に入校し、美術部に入部しました。小学校、中学校と絵に関しては自信がありました。小学校の時は全国絵画展で優秀賞を受賞、中学校時代にも県的美術展で受賞して、周りにもはやされ、自信満々の私。しかし、美術室に入り、美術部の先輩達の石膏デッサンをしている姿や作品を見て絶句しました、レベルの高さに驚いたのです。これ、高校生のデッサン？ 自分の未熟さを痛感しました。今でもそのインパクトは心に残っています。それから2カ月後、私はまだ坊主頭からちょっと髪が伸びた程度、先輩たちにヌードデッサンに連れていかれ、3年生、2年生、そし



て1年生の私、7人が仙台市内にある画材店のデッサン教室に綺麗で若い女性のモデルさんが私の目の前でガウンを脱ぎすて全裸に！私にとっては刺激的過ぎました、必死に描こうとしましたが、手が震え鉛筆を満足に握る事さえできず右往左往。周りを見渡すと、美大を目指す人や、我が美術部の先輩たちは冷静に裸婦デッサンをしていました。その姿を見て煩惱にまみれて美を直視できない自分の未熟さを感じるとともに、わが校の芸術に対する志の高さに感動しました。(2年前にある先輩から聞いたのですが、皆も初めての裸婦デッサンで、私と同じ状態だったとのこと)

当時の美術部は、20名くらいの部員数で、良い意味での体育系的な要素を持った文化部だったと思います。礼儀を教えられ、美術に対する向き合い方も厳しく指導され、スキルも鍛えられました。それでいて自由でほっこりする楽しい部活でもありました。文化祭を間近に控えた合宿で私たちが1年生は、作品を完成させる為に必死でした、それにもかかわらず、先輩たちは夜になると怪談話をし、その後に私たちに古い木造校舎を回らせる恒例の肝試し、その他いろんな経験をさせてもらい、文化部なのに気合と根性を叩き込まれ、美術部としての古高魂を覚えてもらった気がします。作品を完成させるために、皆と徹夜で油絵を描いた日々など良い思い出がいっぱいあります。

今考えれば、あの当時の美術部は全国でもトップレベルだったと思います。高校展でも、我が校が優秀賞等を総なめにしていました、唯一ライバルと言えたのは石巻高校美術部だけでした。多くの部員が美術大学に進学しました、私も美大で絵を勉強したいと思っていましたが、家庭の事情で仕事をしながら東北学院大学の夜間に通い経済を学びました。現在は、東京で経営者としてドタバタした日々を送っていますが、高校を卒業してから今日まで時間を見つけて油絵を描き続けています。東京では、先輩達と毎年、食事を通して情報交換をさせてもらっています。私の2年先輩の赤沼さんは東京芸術大学の教授となり、退任した今でも名誉教授として、また造形家として活躍しています。1年先輩の姉齒公也さんは東京芸術大学の大学院を修了し、独自の活動を続け、多くの人を魅了する作品を世に出し続けています。大崎市内に「しあわせ美じゅつ店」というお店を開いて作家の想いが込められた作品を展示販売し、自らも造形家として活躍中です。

昭和48年卒の美術部部長の佐々木俊弘さんは作品を制作し続け、定期的に個展も開き、今なお、現役のデザイナーとして活躍しています。同卒の庄子明宏さんは、大衡村ふるさと美術館の館長であり、地元での芸術文化の継承活動を続けています。50年卒の大場順一先輩のパワフルな個展が今年2月に仙台の中本誠司現代美術館で開かれました。その際に美術部OBが集まり美術館のスペースをお借りして、お酒を飲み交わしました。皆さんの容姿は大きく変わりましたが、志し、若さ、情熱は、若き日と変わらぬものでした。私も勇気もらい、仕事を辞めたら、もう一度、絵の基本を学び直して芸術家を目指したいと、つい調子にのり決意してしまいました。



アトリエにて

TECHNOLOGY of MAGNETIC PRODUCTS

EMC対策部品

- ノーマルモードラインフィルター
- コモンモードラインフィルター

チョークコイル

- スイッチング電源用ブーストチョークコイル
- インバータ家電PFC用ブーストチョークコイル

TMP株式会社
代表取締役 佐藤勉(昭和42年卒)

神奈川県大和市大和南2-1-16 大和ホワイトビル7F
TEL 046-260-6788 FAX 046-260-1624

百年ゆ宿で現代湯治を

昭56卒 大沼 伸治
旅館大沼 五代目湯守

術部OB展を開催する計画もあるようです。決まり次第皆様にアナウンスさせていただきます。残念ながら、現在の美術部との繋がりが無いので、今後は、いろんな活動の場を通して、美術部後輩の皆さんと交流を深め、刺激し合えたらと思っています。

古高美術部よ、永遠に!!!
(ナカバヤシ株式会社代表取締役)

私は古川高校昭和56年卒で、鳴子温泉郷・東鳴子温泉で「旅館大沼」という湯治宿を代々営んでおります大沼伸治と申します。今回、在京古高同窓会先輩のご紹介にて寄稿させていただきますことに感謝申し上げます。

古高時代、私はスキー部に所属しクロスカントリー競技を行っていました。クロスカントリースキー競技は冬の野山をスキーで駆け巡る過酷なスポーツで、人生における忍耐の基礎は古高スキー部時代に培われたと思っています。

古高卒業後、大学で観光学を学び、バブル前後で賑わっていた伊香保温泉の大型旅館で2年間修行をして帰郷しました。しかし本当の修行は生まれ育ったわが小さな湯治宿で日々であると悟るのにはそれほど時間はかかりませんでした。老朽化した建物への対応、湯治需要の減少、人手の問題、運転資金の手当て等々、私が帰ってくるまで両親が頑張ってくれていましたが、やるべきことは山積していました。

平成13年に父が他界し代表を受け継いだ時、今後宿屋をどうしてゆかかという問題に私はぶち当たりました。当館が100年以上も続いてき



旅館大沼の玄関にて

たのはなぜなのか? 自問自答する日々が続きました。そして導き出された答えがやはり「温泉」そしてその恵みを利用した「湯治」でした。日常からひととき離れ、ゆつくり時間を過ごしなが温泉に浸かり、頭を空っぽにして、身体を温める。とても湯治はシンプルですが、驚くほど心身を再生してくれます。全国いたるところで温泉が湧くこの国で、日本民族は昔からその温泉の効用を知り生きることを利用してきました。旅館大沼は、忙しい現代人に向けた2泊3日からの現代湯治を提案しています。人生100年時代を健康に生き抜くためにも、温泉を皆様の暮らしの中に取り入れて、いつまでも澁刺とした人生を送られることを願っています。

鳴子にお越しの際は、是非旅館大沼で現代湯治をご体験ください。

日本秘湯を守る会
旅館大沼公式ホームページ
<https://www.ohnunacojp/>
各種「You Tube」等も掲載
しておりますので、ご覧ください。

会員通信

- ご盛会をお祈りしております。(S 22年卒/結城雅己)
- いつもありがとうございます。(S 24年卒/三浦澄能)
- 90歳になって元気でいます。施設で暮らしています。皆様に宜しくお伝え下さい。(以下、お嬢様からの付記) 一月で91歳になりました。自分のペースで元気に過ごしております。(S 27年卒/佐藤清勝)
- 老齢のため新年会を欠席します。ご盛会をお祈り致します。(S 27年卒/大内史彦)
- 齢八十八にて耳・目に不自由を覚え候ども新年会・総会の慶事には脚・腰立つ間、出席仕るべく候。(S 30年卒/浅野和夫)
- 現在は「日立市高齢者クラブ連合会」の会長、「茨城県高齢者クラブ連合会」の副会長としてボランティアで頑張っております。残念ながら別件があるため、新年会は欠席します。(S 30年卒/尾崎光彦)
- 一年の計は元旦にあり「心身の健康維持」が新年の願いとし精進致す考えです。皆々様も健康に留意なされますよう心より祈っております。(S 30年卒/門脇喜代志)
- 昨秋、「椿姫」の演奏会に参加できました。ウクライナ出身のオクサーナさん(ヴィオレッタ役)のお陰で大好評だったが私にとって同期の門脇(喜)さんと横山さんに来て頂いたのが嬉しかった。(S 30年卒/高橋廣)
- 米寿となり年相応に耳、脚等が不如意となり残念ですが新年会を欠席致します。祈る、ご盛会。(S 30年卒/手島篤郎)
- 誕生日健診で病気が見つかり病気に負けない様に頑張っております。同期の仲間宜しくの程お願い致します。(S 30年卒/渡辺吉郎)
- 元気に暮らしております。しかし体のあちこちが痛んで病院通いしています。(S 31年卒/相澤昭男)
- 今のところ体調は良好。蛭雪は古高時代を思い出しながら読んでいます。(S 31年卒/木村智明)
- 元気で。週1~2回のテニス及び娘の指示で英会話教室に通っています。若い皆さんと楽しくやっております。(S 32年卒/門間俊二)
- 体調不良の為、歩行困難(新年会欠席します)。(S 32年卒/沼倉和雄)
- 大分足腰弱くなりました。(S 32年卒/竹谷靖夫)
- 85歳になり持病(糖尿病)があるものの今の所概ね元気に暮らしています。当日は都合により欠席します。今回は都合により欠席します。今回は都合により欠席します。(S 33年卒/大山隆志)
- ダウンしてしまいホームにしばらく入る予定です。(S 33年卒/佐々木光一路)
- 新役員の皆さん頑張ってくれてありがとう! 若い会員の加入を増やして下さい。(S 33年卒/高橋俊裕)
- 元気で。(S 33年卒/結城睦夫)
- 理事長をしている日本財団電話リレーサービスで相手の声が文字表示される「ヨメテル」を開始しました。(S 35年卒/大沼直紀)
- いつも大変お世話様になっております。腰部脊柱管狭窄症のため近場を自転車で廻っております。会のご盛況をお祈り申し上げます。(S 35年卒/今野正弘)
- 散歩で健康に気を付けています。関東同窓会のご盛会を祈念しております。(S 35年卒/田中宣郎)
- 息子の赴任先のベトナム・ホーチミン市を訪問の予定で体調を調整中です。(S 35年卒/我妻一美)
- 同窓会の集いはいつも楽しい時と人の縁を頂いております。これからも楽しく参加させて頂きます。(S 36年卒/鹿野車勝)
- 蛭雪を楽しく読ませて頂きました。(S 37年卒/相澤利重)
- ご苦労様です。野球を卒業した今、体力保持の為近場にあるトレーニングセンターで鍛えておりますが昔のように行かず疲れが残るだけ。しかしながら頑張っております。(S 37年卒/六戸照男)
- 菊造り、畑作業、農業支援を行っています。菊造りは小学校での指導。近くの神社で大菊展を開催しております。(S 37年卒/澁谷孝)
- 現在、ガン治療中(S 37年卒/高橋国夫)
- ゼロから農業を始めて何とか直売所に提供するまでになりましたが健康にはすこぶる良いと思っております。(S 38年卒/浅野勝吾)
- 10月中旬に高橋克嘉事務局長と八ヶ岳連峰の硫黄岳(2769m)等の山歩きを楽しんでました。本沢温泉の崖つぶちの露天風呂、快晴の硫黄岳山頂の素晴らしい眺望等、外国人も交じり野趣たっぷり! 下山道のバス停迄、筋肉痛と膝関節痛を凌ぎ何とか間に合いました。今後も温泉付山歩きを楽しみたい!(S 38年卒/佐々木恭次)
- 相変わらず3回ステージに立ち、生バンドで歌っています。仕事は習志野市からもらっています。(S 39年卒/上野正司)
- 体調悪く出席できませんので宜しくお願い致します。(S 39年卒/笹原誠一)
- 届いたばかりの「蛭雪」をドットルコービーで読んでいますと隣で文

庫本を読んでいる年輩の方、私の読んでいるものが気になつて居る様子。何と古高の先輩の方でした。しばし雑談のち4校新年会でお会いすることとして別れました。(S39年卒/後藤雅正)

●老体にムチ打って学童の通学路の見守り、シニアクラブのカラオケ(地区、市の2大会を勝ち抜き県大会に出場。曲目は森進一の「恋月夜」、フリマ出店、大型客船での船旅等で冷や汗を流しています。(S40年卒/高橋博)

●四校同窓会のご盛会をお祈り致します。今年も良い年でありますように。(S40年卒/武田俊夫)

●同期生の笑顔に再会の喜びを感じたい。(S41年卒/菊地務)

●バドミントンは週2回、歌唱(歌謡曲と民謡)と晩酌(ビールと熱燗)は毎日やっています。(S41年卒/高橋秀之)

●古郷田尻に住んでいます。過疎化が進んでいますが老後の生活はとても過ごし易い所です。(S42年卒/大友文博)

●今年はい年で私は後期高齢者75歳になります。年々時間が早く感じるこの頃です。今やるべきことを地道にやっつけていこうと思っています。(S44年卒/相澤次男)

●昨年9月に叔父啓輔(S26年卒)が亡くなり11月には義兄を亡くしました。新年の寿を辞退致します。盛会を祈念致します。(S44年卒/角田耕一)

●同窓会は意味がない? いやいやある医学博士はこう言っています。「老化を防止するためには外出して人に会うという大切さを維持することが大事です。出席者はいつものメンバー、交わす会話もいつもと同じであったとしても同窓会に出席することは良いことで

す。多少の緊張感を持ちながら人と接することが脳を刺激し新しい感動を得ることもできるのです。」会員の皆さん老化を防止するためにも同窓会に出席して往年を懐かしみ大いに語り合いましょ。(S44年卒/山中政法)

●何もせず日々暮らしています。(S45年卒/馬場博)

●やるべきこと、やりたいことが増えています。もう少し熊本で頑張ります。熊本にいても心はいつも古高生!(S46年卒/今川和彦)

●私の履歴書、野球編は私にも懐かしく応援だけでしたが築高戦も大いに盛り上がりました。来年は昭和100年目の節目となります。少しずつ整理を始めようと思っています。(S46年卒/遠藤孝)

●今回は申し訳ありませんが欠席とさせて頂きます。また、自宅のPCが不調のためご連絡頂いていると思ひますが返信できずにいます。申し訳ありませんでした。(S46年卒/笠間邦彦)

●夏の全国高校野球大会の東北大会もしかしたら古高が甲子園へ!とワクワクして宮城球場へ応援に行きました。サードは佐々木さんでございます。思い出を有難うございます。(S46年卒/佐々木明)

●いつもご苦勞様です。(S46年卒/佐藤博芳)

●仕事のため残念ですが、欠席させて頂きます。(S47年卒/板垣宏)

●母の法事のため残念ですが欠席します。(S47年卒/大友芳夫)

●「しがらみは振り所」蛭雪第74号伊藤会長の名言! 1981年3月開業のとき、伊藤防衛庁長官より「努力」を、1996年11月には第69代衆議院議長より「躍進」を揮毫して頂き額に入れて無一文

の私が連続6年日本一になれた。ウサギ小屋から100m超の平均専有面積日本一の偉業の源は古高の大先輩の「しがらみ」を信用力と出来た事です。(S47年卒/小嶋進)

●いつもありがとうございます。(S47年卒/佐々木保)

●叔父の一周忌の法事のため欠席です。早いもので年男を迎えます。(S47年卒/松木秀一)

●新年会は欠席しますが、元気に過ごしております。(S48年卒/阿部孝則)

●ちょうど宮古島への旅行と重なってしまひ新年会は参加できません。すみません。(S48年卒/安海一良)

●12日に帰京しました。返信が遅くなりすみません。本年も宜しく!(S48年卒/小川邦博)

●古来稀なる齢になります。でも、体を鍛えて周りの迷惑にならないように(元氣過ぎて邪魔にならない程度に)。(S48年卒/伊藤健二)

●古希を機に食後の軽いウォーキングと週2回の筋トレで健康維持に努めております。(S48年卒/貝修二)

●2025年2月に開催(豊田市)するハンドボールシニア(60歳以上)大会に参加、頑張ります。シユートを決めます。(S48年卒/加藤敏朗)

●幹事の皆様ご苦勞様です。昨年末に右足骨折のため現在、自宅にて療養中。残念ながら欠席致します。(S48年卒/早坂京三)

●古高応援の未来は? 大会での応援、エール交換、国歌、部活の歌等少々寂しいこの頃。凶南歌、凱歌、山の神等々、甚を思い出します。(S51年卒/菅原博之)

●会報作成、お世話様です。役員各位に感謝致します。(S51年卒/込智明)

●新年号(蛭雪第74号)に原稿執筆させて頂きました。今後ともよろしく願ひ致します。(S52年卒/荒木健次)

●昨年中は大変お世話になりました。今年も皆様のご活躍祈念致しております。(S52年卒/佐藤清陽(旧姓・佐澤裕))

●65歳で2度目の定年退職をしました。かつての仕事仲間(他社)と10年ぶりに集い、新年には9年ぶりに大学時代の友人たちと集まります。(S52年卒/平野幸二)

●3月で退職し9月から社務士事務所を開業予定です。(S53年卒/遠藤淳)

●緑寿を機に(でもないですが)新天地にて新業務に取り組んでいます。(S53年卒/鹿野太一)

●歩くことが趣味です。12月はTKO KYOウォークと鎌倉ウォークに参加。疲労感がありますが気持ちは爽快です。(S53年卒/佐々木裕次郎)

●お世話になっております。毎度、欠席で申し訳ありません。(S53年卒/高橋昭彦)

●最近の会員通信の充実ぶりが嬉しいです。興味深いコメントが多く勉強になります。(S55年卒/亀井明)

●メールアドレスを変更しました。宜しく願ひします。Ykns563jpc@gmail.com (S56年卒/菅原祐二)

●最近郷里大崎の古高同窓生の方々と仕事をする機会が出来、今までにない仕事の充実を感じています。(S57年卒/赤間英一)

●年末にパソコンでインターネットを閲覧中に「サポート詐欺」に遭い10万円を騙し取られてしまいました。

●大阪勤務のため欠席します。東京に戻ったらまた出席します。宜しくお願い致します。(H11年卒/菊地宏幸)

●(S59年卒/高橋克嘉)

●(S26年卒/角田啓輔様)

●(角田耕一様より) お世話になりました。心から御礼申し上げます。

●令和6年10月1日死去いたしました(S28年卒/中川裕雄様)

●(奥様より) 永い間お世話になりました心から御礼申し上げます。

●令和4年1月24日うつ血性心不全で亡くなりました(S34年卒/宮野貞司様)

●(奥様より) お世話になりました心から御礼申し上げます。

●令和6年10月14日に脳出血の為80歳で他界致しました(S38年卒/菅原清春様)

●(奥様より) 生前のご厚誼感謝致します。

●普通科なのに音楽関係のOBが多いのは古高の特色と認識していましたが、昭和52年卒湯本先輩の投稿を読んで、古高美術部のレベルの高さを知り、眼からうるこの思ひです。

●もと卓球の世界選手権団体2回連続金メダルで「史上最速の強打者」と謳われた角田啓輔先輩の計報が届きました。日中国交正常化の頃、日本卓球OB団長として中国を訪問し、当時の周恩来首相と会見している角田さんの写真が思い出されます。(亀井)

墓碑銘

編集後記